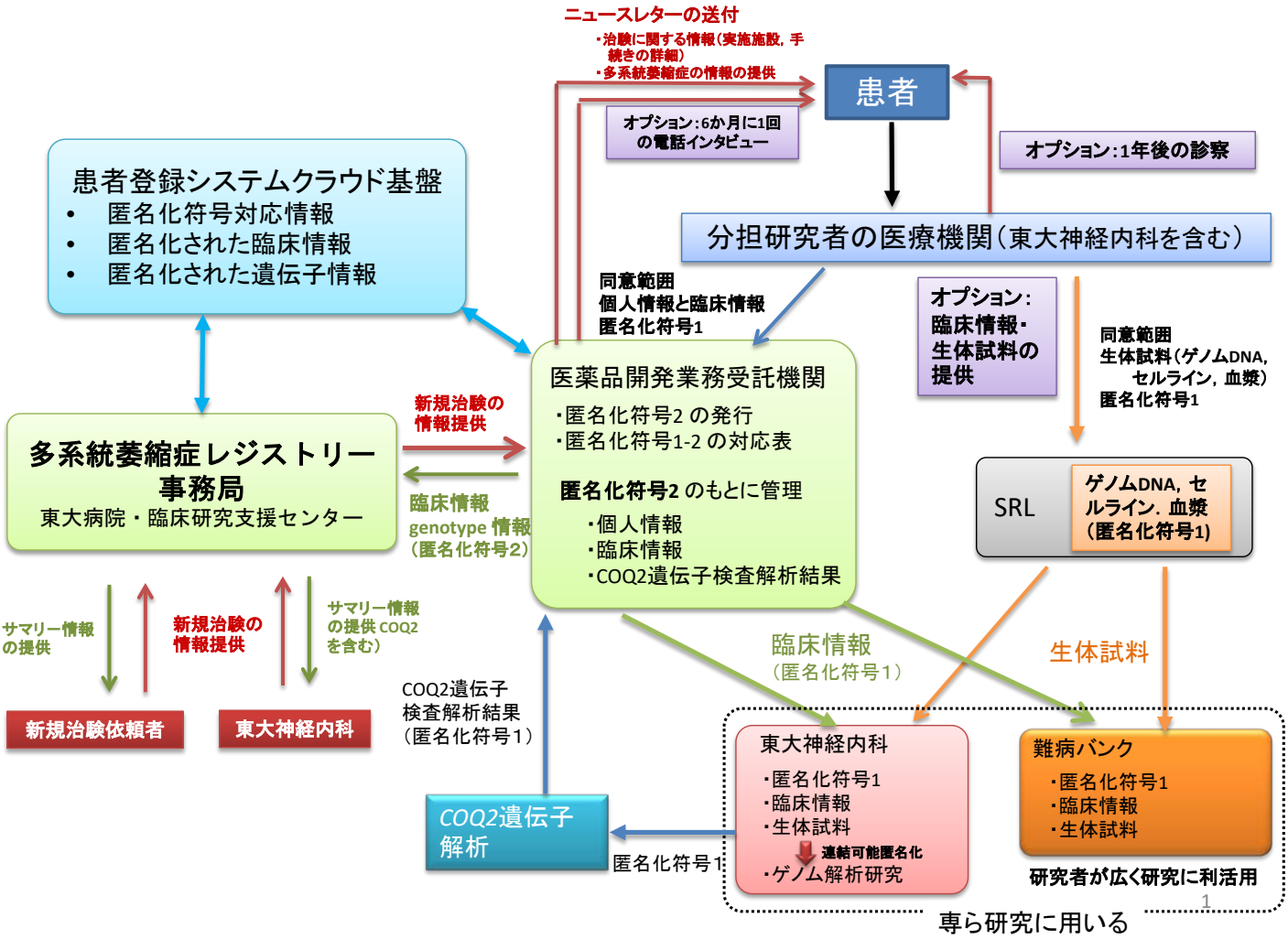
多系統萎縮症の標準評価尺度の作成と患者登録・自然歴の調査



研究分担者:辻　省次(東京大学　分子神経学講座)

【目的】

① 国際的に広く使用されている臨床症状の評価尺度の日本語訳を標準化し，信頼性・妥当性を検証する．

② 多施設共同で患者登録を行い，生体試料のバンキングと，前向きに自然歴を調査する．

【成果】

1. 日本語訳の標準化作業を行っており，今年度中に完了する見込みである．
2. 多施設共同で多系統萎縮症患者レジストリのロジスティックスを整備した．生体試料，臨床情報の収集を開始している．